

平成29年（2017年）12月期 第2四半期決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

(証券コード：3386)

2017.8.8

www.cosmobio.co.jp



目次



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

1. 会社概要と事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 3
2. 2017年当社を取り巻く事業環境・・・・・・・・ p. 8
3. これまでの取り組み成果と今後の取り組み・ p.13
4. 決算の概要および業績予想について・・・・ p.24

1. 会社概要と事業の内容

www.cosmobio.co.jp

© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

3

会社概要



社名：	コスモ・バイオ株式会社	
本社所在地：	東京都江東区東陽二丁目2番20号	
代表者：	代表取締役社長 櫻井 治久	
設立：	1983年8月25日	
資本金：	918百万円	
事業内容：	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の仕入（一部自社製造）及び国内・海外販売	
従業員数：	連結：128名 個別：100名（2017年6月30日時点）	
連結子会社：	ビーエム機器株式会社	
非連結子会社：	COSMO BIO USA, INC. 株式会社プロテインテック・ジャパン	

© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

4

事業の内容 - 商流 -

研究者と仕入先を結ぶ
コスモ・バイオ



事業の内容 - 商社機能・メーカー機能 -

商社機能

世界中の約**600**社の仕入先



世界各地にある最先端の商品を安心・安全に
研究者の皆様に提供

メーカー機能



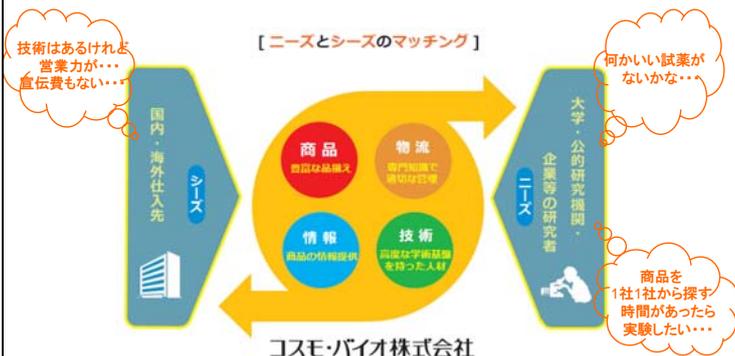
札幌事業部にて
自社品の開発・製造
自社受託サービスの提供

自ら作る、サービスを提供する
ことでソリューションを提供

研究者に最新の商品とサービスでソリューションを提供

●膨大な商品と多彩なユーザーニーズの「マッチング」

世界のメーカーから仕入れる膨大な商品ラインアップ（＝シーズ）の中から、研究者にとって有用な商品（＝ニーズ）を選び出し、タイムリーにお届けする。商品とユーザーの「マッチング」こそが、最も重要な私たちの役割であり真髄。これを実現させ、商品購入前のお問い合わせから購入後のフォローまで、迅速かつ丁寧に対応。



●適切な温度管理

試薬の多くは、タンパク質や核酸・細胞など、生物由来の物質、いわゆるナマモノであり、仕入から保管、お届けまで厳重な温度管理が必要。各種温度帯を備えた倉庫、入出荷ノウハウにより、適切な温度管理で商品をお届け。

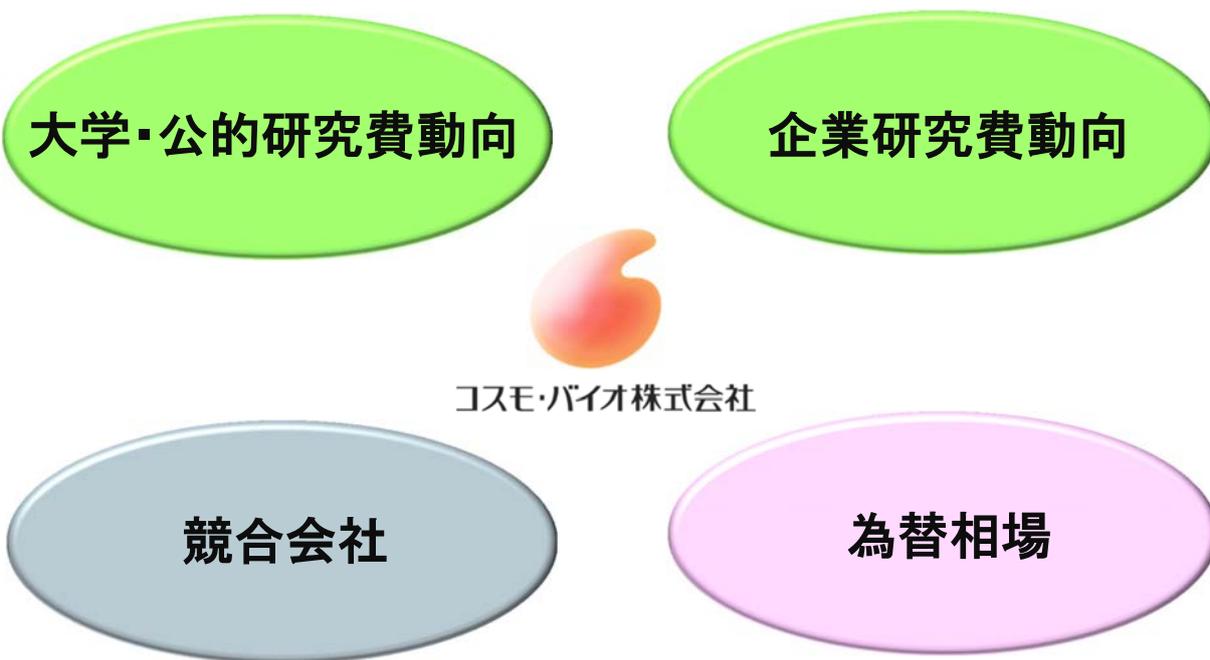


●関係法令・規制

- ◆動物検疫
商品が動物由来、もしくは動物由来の成分を含む場合、輸入・輸出の際には動物検疫対象となる。専門知識により、迅速に対応。
- ◆使用・保管への注意
商品には、毒劇物・薬物・危険物・遺伝子組換え物質等の、法律で取扱いが厳しく定められているもの、有機溶媒など廃棄規制があるものがあり、商品取扱いに関する情報も適切に提供。

2. 2017年当社を取り巻く事業環境

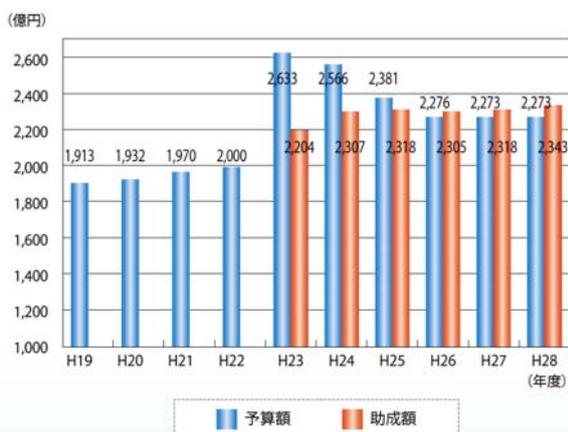
当社を取巻く環境



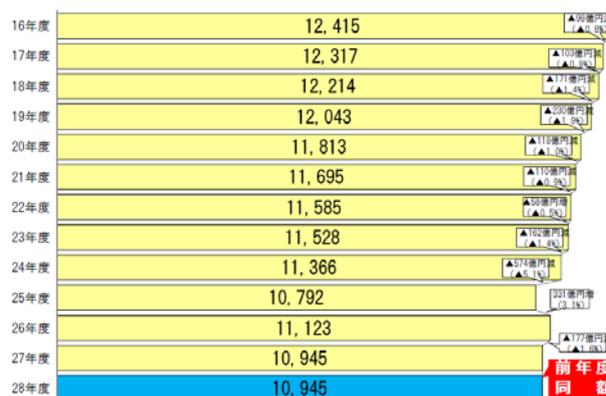
大学・公的研究費動向

2017年度政府予算案のうち、バイオテクノロジー関連予算は2016年度予算比1.7%増の約2560億円。そのうち、AMED（日本医療研究開発機構）対象の予算は、前年と同額の1,263億円。2017年度科研費の予算は、2016年度比11億円（0.4%）増額の2,284億円。削減が続いていた国立大学法人運営費交付金は1兆970億円で、2016年度比25億円（0.2%）の増額。また、2017年度から順次、科研費の制度が変更される。

● 科研費の予算額・助成額の推移



国立大学法人運営交付金予算額の推移（単位：億円）



2017年事業環境について

企業研究費動向

医薬品企業関連においては、再生医療事業等の新規事業などに取り組む化学・素材関連等の異業種参入企業数の増加、大手製薬やバイオ企業による有望ベンチャー等へのM&A活動の活発が予想されるが、基礎研究分野の資金投資は微増から横ばい傾向が継続すると予想。

競合会社

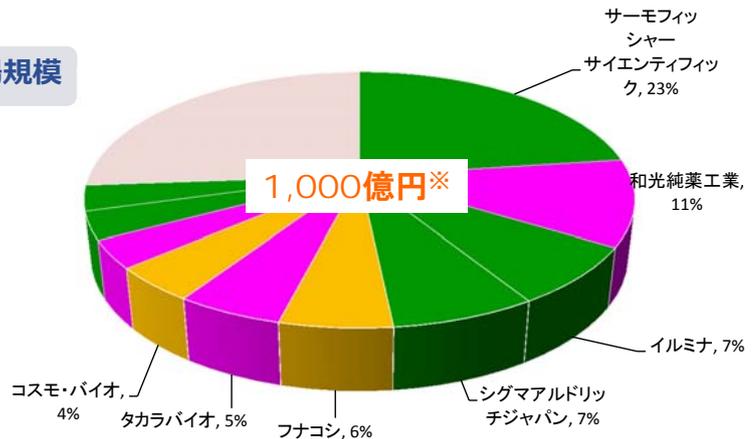
市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争は継続。

ライフサイエンス研究用試薬の市場規模

◆競合会社のパターン◆

- 1 海外企業の日本法人
- 2 大手企業の子会社・部門
- 3 商社

※矢野経済研究所調べ



2017年事業環境について

為替相場



為替変動により利益に影響
(円安では仕入原価・コスト高)

平均為替レートの推移 (円/ドル)

2014年	2015年	2016年	2017年 予想
106円	121円	111円	115円

【2016年】

【2017年上期】



3. これまでの取り組み成果と今後の取り組み

www.cosmobio.co.jp

2016年からの取り組み



目指す姿

これまでの

商品を**導入**し、そこに自社の生み出す「分かりやすさ」「安心・安全」を付加価値としてユーザーに**提供**するプロフェッショナル



商品提供で充足できないニーズに対し、テクニカル面も含めたソリューションサービスを**提案**するプロフェッショナルへ

将来のためにいまやるべきこと

- ✓ 既存の商社としての機能の品質を保ち、さらに向上させる
- ✓ 利益率の高い商品・サービスの比率を高める
- ✓ 「自らによるサービス+海外サービス」の比率を高める
- ✓ 「自らによる製品」の比率を高める（利益確保、為替に左右されない収益構造の確立）

商社としての基盤強化

- ① エンドユーザー訪問営業強化
- ② プロテインテック・ジャパン設立



既存事業の基盤強化

ユーザーとの繋がりを強く
メーカーとの繋がりを強く

メーカー機能の強化

- ③ ペプチド・抗体製造受託事業開始
- ④ 札幌事業拠点拡張プロジェクト



新たな事業の柱へ

自社品の製造
自社ブランドのサービス

① エンドユーザー営業訪問強化

概要

当社は従来より、全国各地の代理店販売網を利用して、隅々までのユーザーに商品・情報を提供している。

この利点を活用しつつ、さらにユーザーを直接サポートすることによって、ユーザーおよび代理店から選ばれる組織にする。

目的

- ユーザーとの双方向コミュニケーションの強化
- 当社の商品・サービスをユーザーおよび代理店に知っていただく機会を増やす

進捗

- 営業体制を変更（外勤・内勤の分業の明確化による効率化の向上、社に戻らずにほぼ社外で業務が行える環境の整備）
- 代理店担当制からエリア担当制へ変更
- コミュニケーション時間の増加により、ユーザーニーズの汲み取りおよび適切な商品・サービスの提供を継続中

② プロテインテック・ジャパン設立

概要

2016年11月22日、仕入先であるProteintech Group, Inc.（米国）と、
合併会社である 株式会社プロテインテック・ジャパン を設立。

→ 日本におけるProteintech Group, Inc.製品の技術サポートと販売促進事業



コスモ・バイオ株式会社

目的

- 「600社ある様々な仕入先の事業をサポート」から
「特定仕入先とのタイアップ」により供給安定性、
販路の維持・拡大、知見の収集を実現



プロテインテック社製品の一例

進捗

- 次のステップのためのモデルケースとしての見極め
(他の仕入先、マーケットの反応等)
- 今後は他の仕入先への横展開

③ ペプチド・抗体製造受託事業開始

概要

2016年12月、研究用ペプチドの受託合成サービス事業および抗体の受託製造
サービス事業に本格参入。自社にて生産・サービスを開始。

目的

- 自社製品ブランド力の向上や、既存商品・サービス
とのシナジー効果
- 当社が提供する様々な受託サービスや商品ライン
アップとのシナジー効果

進捗

- 当初計画との大きな乖離なく順調にスタート
- 札幌事業所拡張を機に、さらに軌道に乗せていき
たい



ペプチド合成設備

④ 札幌事業拠点拡張プロジェクト

概要

北海道に事業所を建設し、現行の開発・製造・
受託サービス事業の拠点を集約移転
(2017年秋稼働予定、投資額約5億円)

目的

- 研究用試薬の自社開発・製造および受託
サービス事業の拡大・強化
- 将来の事業基盤となる技術の開発



地鎮祭の様子

進捗

- 2017年10月より稼働予定
- 産総研、農研機構との共同研究成果を生かし、第一弾となる
製品を製造開始

その他の取り組み

- 新基幹システム (SAP) の運用開始 (2016年10月～)
 - 物流の効率化、マーケット情報解析、顧客ニーズの吸い上げ等、利用を高めていく。
- 新規事業
 - 4月1日付の組織改正において、新規事業・M&A・事業投資・関連会社管理に特化した部署として、企画部を立ち上げ。
- 人事
 - 人事評価制度改革
- リスク管理
 - リスク管理委員会の活性化

商社かつメーカーとして研究者をサポート

- 新事業所における効率的な人材活用
- 今後の需要が見込める受託サービスの自社サービスメニューの充実
- 独自の自社製品の開発
- ウェットラボとしての機能を利用しノウハウを持った営業活動 等

これまでの活動を継続し、将来に向けた取り組みを展開。

確実な、投資回収はもとより、投資した以上の効果を生み出す。

経営ビジョン

『生命科学の研究者に信頼される事業価値を高める』

重要課題

研究者から信頼を戴く

既存事業基盤の強化

新たな事業基盤の創出

企業価値の向上

既存事業基盤の強化

商社として

情報力

情報の即時発信
製品の性能
法令・納期

製品力

特長のある商品・サービス
適正在庫、納期短縮

提案力

課題解決型営業の強化
ユーザー密着型の
営業体制

メーカーとして

開発力

自社製品・サービス
産学官連携の強化

新たな事業基盤の創出

- 新規事業の創出 – 従来とは異なる成長分野を積極的に開拓
- 資本・業務提携 – 競争力の維持・強化、事業拡大、コスト削減

企業価値の向上

- 業務効率化
- 人事評価制度改革
- リスク管理
- CSR活動

4. 決算の概要および業績予想について

連結決算対象会社について

社名： ビーエム機器株式会社

本社所在地： 東京都江東区東陽二丁目2番20号

代表者： 代表取締役社長 櫻井 治久

設立： 1985年6月

事業内容： ライフサイエンス研究用の機器類、消耗品の輸入および国内販売



コスモ・バイオが研究用試薬を、ビーエム機器が研究用機器・器材・消耗品を扱うことで、試薬と機器両面からの研究サポートを実現。



連結業績ハイライト

当初の予想は**微増収・大幅減益**を見込んでいたところ、
結果は、
予想比で**減収・大幅増益**、**前年比**で**減収・微増益**。

売上高

【当初予想比】	(+) 利益率の高い事業の売上増
5.2%減	(-) 大手仕入先との契約終了に伴う売上減をサポートする売上挽回が目標未達
【前年比】	(-) 市場の伸び悩み
7.1%減	

親会社株主に帰属する四半期純利益

【当初予想比】	(+) 利益率の高い事業の売上増
152.0%増	(+) 事業投資組合の出資金分配益
【前年比】	(+) NEDO助成金
2.9%増	(-) 研究開発費、減価償却費の増加

(金額単位: 百万円)

	2016年 第2四半期 累計	2017年 第2四半期累計		前年同期比 増減	当初予想比 増減	
		当初予想	実績			
売上高	3,983	3,900	3,699	△7.1%	△5.2%	注1
売上総利益	1,432	-	1,359	△5.1%	-	注2
販管費	1,070	-	1,152	7.7%	-	注3
営業利益	362	115	206	△43.0%	79.4%	注4
経常利益	367	165	399	8.7%	141.9%	注5
親会社株主に帰属 する四半期純利益	257	105	264	2.9%	152.0%	

注1 2016年度に大手取引先との契約終了が複数件あり、マイナスとなる売上分を他商品の売上で充当する計画であったが、計画未達。

注2 粗利率は36.0%から36.7%へと改善。為替は計画115円/ドルに対し、平均113円/ドル。

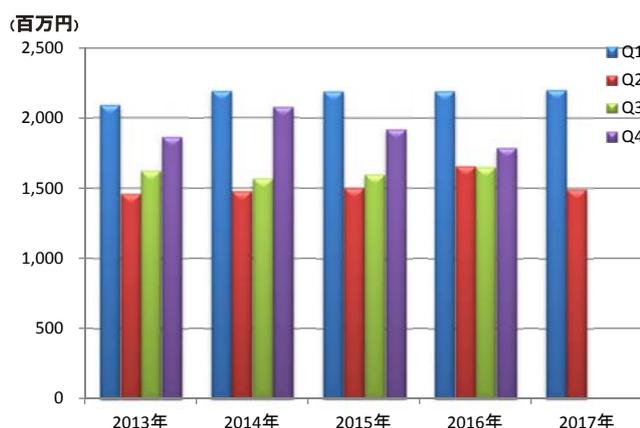
注3 販管費増加は、基幹システム減価償却費、研究開発費等。

注4 為替効果、利益率の高い商品・サービスの販売増、利益率の低い取引先との取引終了等により、営業利益は前年比減ではあるものの、当初予想を上回った。

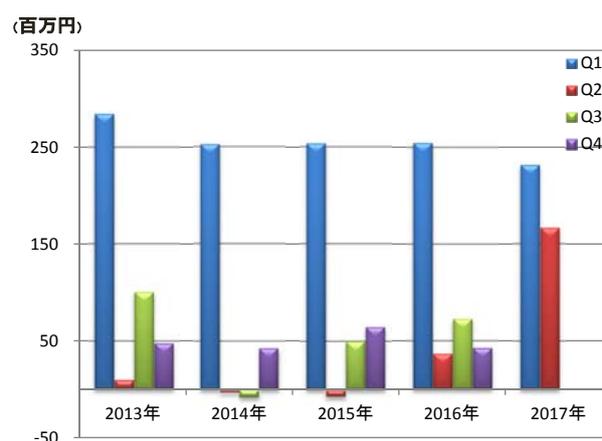
注5 営業外収益で出資金分配益+141百万円が計上され(計画外)、予想を大幅に上まわり、またNEDO助成金+35百万円が計上され(計画内)経常利益および純利益は前年並みとなった。

四半期別動向 (売上高、経常利益)

売上高



経常利益



【売上高】従来の四半期別売上高の傾向は、Q1で最も多く、Q2以降階段状に上がってくるパターン。近年、政府予算の一部繰り越しができるようになり、この傾向も緩やかになっている。

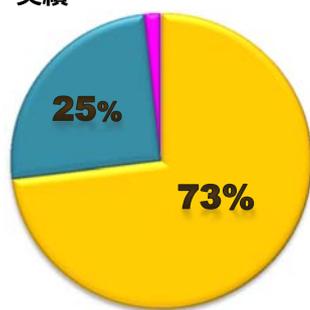
2016年は下期に複数仕入先との取引終了があり苦戦。2017年年度はQ2は取引終了分の売上を取り戻せていない。

【経常利益】従来の四半期別経常利益の傾向は、Q1で最も利益を稼ぎ出す構造。

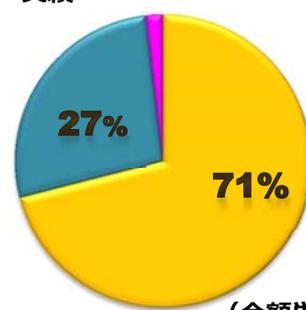
2017年は営業外収益が多く計上され(前述)、Q2大幅利益増。

商品分類別連結売上高

2016年第2四半期累計
実績



2017年第2四半期累計
実績



(金額単位：百万円)

連結	2016年第2四半期累計実績		2017年第2四半期累計実績		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
研究用試薬	2,910	73.1%	2,625	71.0%	△284	△9.8%
機器	1,003	25.2%	1,005	27.2%	2	0.2%
臨床検査薬	70	1.8%	68	1.8%	△1	△2.8%
合計	3,983	100.0%	3,699	100.0%	△284	△7.1%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2016年12月末	2017年6月末	増減額
資産合計	7,934	8,398	464
流動資産計	5,495	5,542	46 注1
固定資産計	2,438	2,856	418 注2
負債純資産合計	7,934	8,398	464
負債計	1,352	1,475	123
純資産計	6,581	6,923	341 注3
自己資本比率	77.3%	77.0%	

注1 現金及び預金の増加+506百万円、売上債権△297百万円、有価証券△200百万円

注2 札幌事業所に係る建設仮勘定+162百万円
投資その他の資産について、その他有価証券の時価による評価+213百万円

注3 繰延ヘッジ損益+1百万円（為替予約の差益・差損はほぼ出ていない）

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2016年 第2四半期累計	2017年 第2四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	466	332	△133
投資活動によるキャッシュ・フロー	52	257	205 注1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△61	△73	△11
現金及び現金同等物の増加額	452	506	54
現金及び現金同等物四半期末残高	1,550	2,154	604

注1 投資事業組合からの分配金による収入+201百万円
有形固定資産の取得：札幌事業所（一部）、ペプチド合成装置
無形固定資産の取得：基幹システム追加開発

2017年12月期の連結業績見通し

※8月4日に業績予想の修正を行いました。

(単位：百万円)

	16/12月期 実績	17/12月期 当初予想	17/12月期 修正予想	対前年比		(参考)
				当初予想	修正予想	17/12期 上期実績
売上高	7,427	7,500	7,200	1.0%	△3.1%	3,699
営業利益	514	115	140	△77.6%	△72.8%	206
経常利益	483	180	360	△62.8%	△25.6%	399
親会社株主に帰属 する当期純利益	254	105	230	△58.7%	△9.6%	264

平均為替レート	16/12月期 実績	17/12月期 予想
円/USドル	111円	115円 (修正なし)

* 17年上期実績 113円

売上高：下期分の予想を100百万円減額し、通期予想を7,200百万円。

営業利益：10月以降、減価償却費の増加を見込み、研究開発費の増加、引越し費用等を踏まえ、販管費増のため、当初予想は上回るものの前年比大幅減。下期マイナスの見込み。

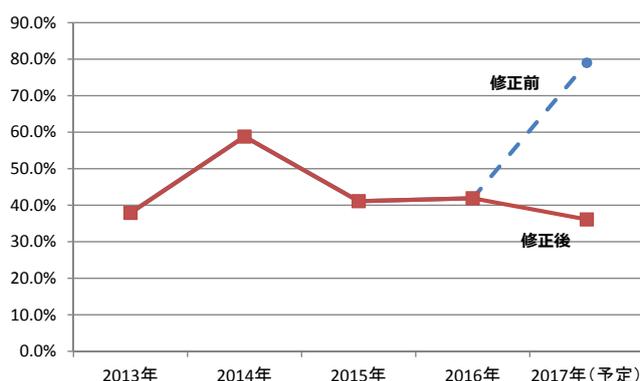
経常利益：上期の出資金分配益が通年で寄与し、当初予想より大幅に上回る見込みであるが、前年比減。

	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2017年 12月期	6円	8円 (予定)	14円 (予定)

業績予想修正の結果、連結配当性向（予定）は79.0%から36.1%に。

国際情勢による為替変動の見極めが難しいことから、現時点では配当予想の修正はなし。

連結配当性向の推移



1株当たり配当額の推移



ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
コスモ・バイオ株式会社 総務部
ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

以下、ご参考資料です

参考資料

主な連結経営指標等の推移

	2012年 平成24年	2013年 平成25年	2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年
売上高(百万円)	7,241	7,050	7,235	7,357	7,427
経常利益(百万円)	801	444	285	373	483
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	411	313	201	230	254
純資産額(百万円)	5,720	6,797	6,532	6,378	6,581
総資産額(百万円)	6,955	8,277	8,161	7,790	7,934
1株当たり純資産額(円)*	882.27	1,064.59	1,020.56	1,003.87	1,034.90
1株当たり当期純利益(円)*	69.44	52.82	34.02	38.89	42.93
自己資本利益率(%)	8.1	5.4	3.3	3.8	4.2
総資産経常利益率(%)	11.7	5.8	3.5	4.7	6.2
株価収益率(倍)**	16.6	45.4	43.9	27.6	29.2
配当金額(単体)(円)	2,000	20	20	16	18
配当性向(連結)(%)	28.8	37.9	58.8	41.1	41.9
純資産配当率(連結)(%)	2.3	2.1	1.9	1.6	1.8

* 2013年1月に1株につき100株の株式分割を行ったことに伴い、1株当たり純資産、1株当たり当期純利益を遡及修正しています

** 株価は12月期の末日終値

ライフサイエンス研究



•ライフサイエンス研究は・・・

医療分野だけでなく、私たちの生活を支える経済や社会の発展にも大きく役立っています。

コスモ・バイオは
研究に必要な
薬品 (=試薬) や
**実験道具 (=機器、
消耗品)** を
世界各国から種類豊富に取り揃えて、
ライフサイエンス研究を支援しています。

Q.何を売っているの？

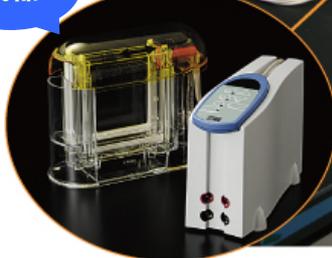
取扱商品の一例

試薬



培地、緩衝液など

機器



小型実験機器

試薬



キット(試薬セット)

試薬

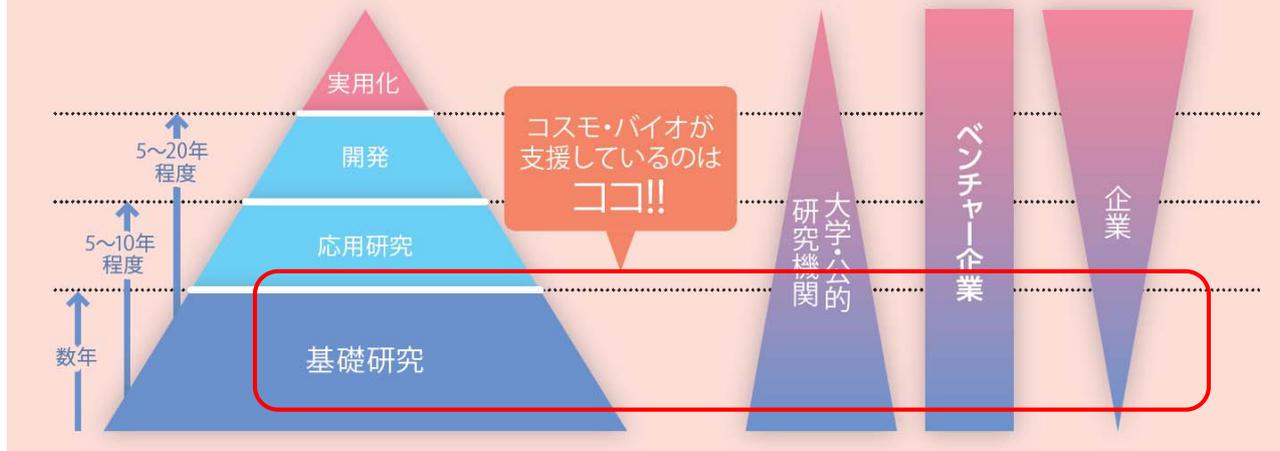


抗体・生理活性物質など

ライフサイエンス研究とユーザー層 -1

➤ 研究ステップ

➤ 各研究ステップの研究機関（ユーザー層）



ライフサイエンスの技術が実用化されるまでには
とても長い年月がかかっています。
コスモ・バイオはその研究の第一歩である、「基礎研究」を行う
研究者向けに、研究用試薬・機器を販売しています。

ライフサイエンス研究とユーザー層 -2

大学

公的研究機関

企業

・国から提供される

- 運営交付金
- 競争的資金(例:文部科学省の科研費)

などの資金をもとに研究活動を行う。

理化学研究所(文科省)
産業技術総合研究所(経産省)
医薬基盤・健康・栄養研究所(厚労省)
...

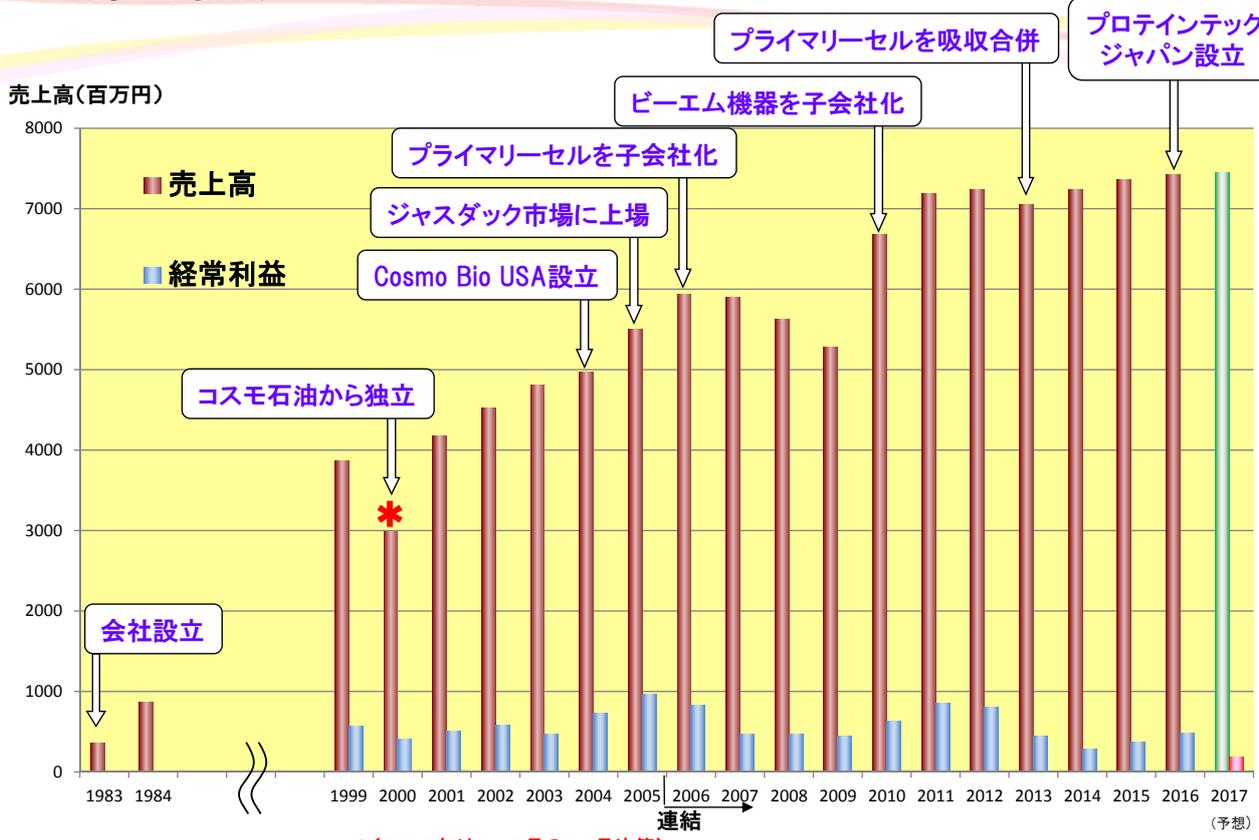
製薬会社、食品会社、
化粧品会社、
ベンチャー企業、...

・各企業の事業計画や開発プランなどに基づき、**基礎研究にどのくらい「投資」するかの予算**が生まれ、その資金をもとに研究活動を行う。

基礎研究を支える科研費予算(文部科学省)



参考資料
当社の歩み



参考資料
株式の状況 (2017年6月末現在)

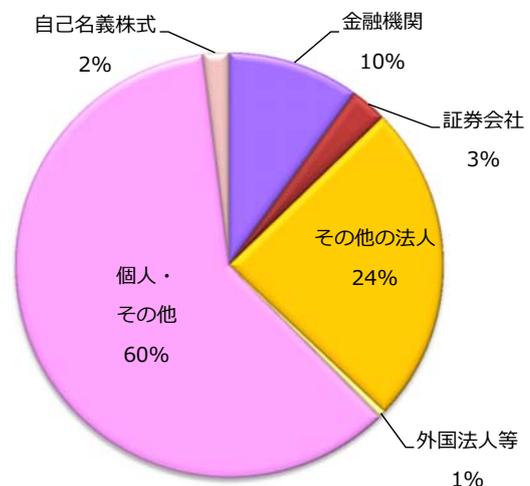
発行可能株式総数 18,361,600株
発行済株式の総数 6,048,000株
自己株式数 120,000株

株主数：5,776名

大株主の状況

株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43%
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 コスモ石油口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	576,000	9.72%
コスモ・バイオ従業員持株会	161,000	2.72%
株式会社ヤクルト本社	100,400	1.69%
原田 正憲	94,500	1.54%

所有者別株式分布状況



『公開講座応援団』

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています



『世界一いきたい科学広場in宗像』

【講座の一例】



『iGEM生物ロボットコンテスト
参加日本チームへの支援』

米国マサチューセッツ工科大学で毎年行われている「生物ロボット」コンテストに参加する日本の大学チームを、資金援助を通して応援しています



『北海道大学』

【参加されたチームの一例】

『消化管
体験ツアー』

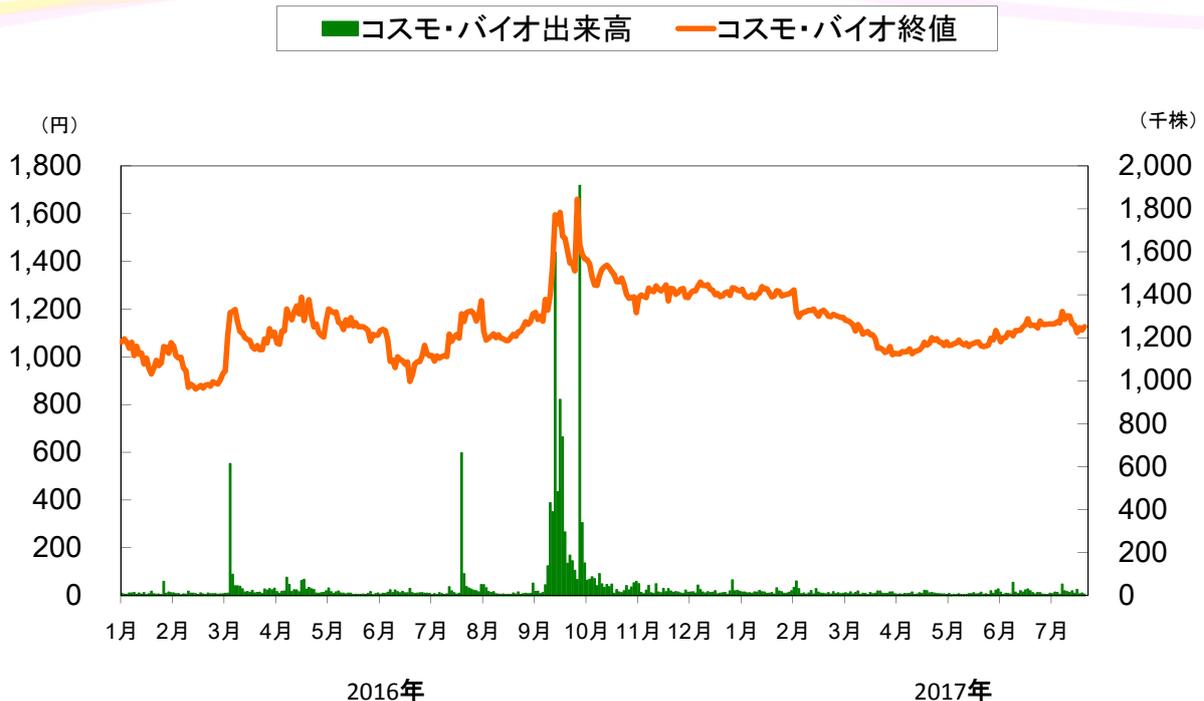
食道から大腸まで、子供が潜り抜けられるトンネル構造模型です



『Science Signaling』



米国科学振興協会が発行する“Science Signaling”の日本語サイトを当社ウェブ上で運営しています



前日 (8月7日) の終値 : 1,171円